

単元名	大田の藍染を広めよう（第6学年）		
内容	ものづくり	総時間数	35
目標	大田区内でも生産されている藍染の技術を生かした布製品の製作や製品開発活動を通して、ものづくりのまち・大田の製品や製品開発の手法を理解し、相手や目的に応じたものづくりの工夫について考えるとともに、伝統工芸に関わる人々及び学年の仲間たちの思いや願い、多様な考え方を受け入れたり関連付けたりしながら、主体的に思考・判断して、行動したり生活したりすることができるようにする。		
指導計画の概要			
学習過程	主な学習活動		外部連携・教材等
コンセプト設定	<ul style="list-style-type: none"> ○藍染に関心をもち、学習計画を立てる。 ・藍染とはどういうものか、もっと知りたい。 ・昨年度の6年生の売上実績を知りたい。 ・藍染について詳しい人に話を聞きに行きたい。 ○藍染に携わる人の願いを聞き、学習計画を具体化する。 ・藍染の魅力を伝えるには、まず自分たちが藍染をしてみて、その魅力を確かめる必要がある。 ・製品の作り方や売るための工夫を考えたい。 ・製品ができたら動画を作るなどして宣伝したい。 ・予算的なこともなども計画する必要がある。 		
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ○大田区で作られている製品について調べる。 ・5年生で行ったまちの飲食店のよう、技術を生かしている。 ○大田区お土産100選について調べる。 ・様々なお菓子がたくさんある。相手の立場で考える。 ○地域の伝統を活かし自分たちにできそうな製品について決める。 ・お菓子作りは難しそう。 ・藍染のハンカチはどうだろうか。 ○どのようなお土産がいいかリサーチしてみたい。 ○永谷園の企画開発部の方から話を聞き今後の見通しをもつ 		<p>大田区お土産100選に関わる人の話を聞く。</p> <p>永谷園さんの企画開発部の方から製品を開発する時の考え方や仕事の流れを聞く。</p>
クリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ○チームに分かれて藍染製品の製作や開発を進める。 ・企画開発部：売り方を考える。 ・製品開発部：製品の模様を考え、試作を繰り返す。 ・商品梱包部：パッケージの仕方を考える。 ・宣伝部：ポスターやチラシの作成、動画を制作する。 ○部ごとに仕事の進捗状況を発表する会議を開く。 ○宣伝部のアイデアに即して、動画を作ったり、校内放送をしたりする。 ○3学期学校公開等で販売活動をする。 ○保護者会等で、藍染体験会を実施する。 ○学習活動を振り返る。 ・役割を分担し、話し合いを通して販売体験をすることができた。 ・活動を通して、**の点で自分が成長したと思う。 		<p>白いハンカチに様々な藍染の方法を試し、販売するデザインを藍染職人の方からもアドバイスをもらう。</p> <p>ものづくりフォーラムへの参加（5年に1回）</p>
本単元を行うために授業時数を削減する教科等、本単元で補完する内容及び削減する授業時数			
教科等名	本単元で補完する内容		授業時数
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元「公共図書館を活用しよう」（知技(3)オの内容） ○「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」（知技(1)オキ、思判表A(1)エの内容） ○「構成を考えて、提案する文章を書こう」のうち、思判表B(1)イに関する内容（調べたことを基に、提案する文章を書く活動）。 		9
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○「日本の歴史」の単元全体のうち、(2)イ(ア)の内容。 ○「日本の歴史」中の「8 町人の文化と新しい学問」のうち、内容(2)ア(シ)の内容。 		3
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○「データの調べ方」D(1)のうち、統計的な問題解決の方法に関する内容。 ○「算数のしあげ」のうち、D(1)(2)に関する内容。 		6
理科	○小単元「私の研究」（自由研究の進め方に関する内容）		2
総合	○【課題の設定】→【情報の収集】→【整理・分析】→【まとめ・表現】の探究のサイクル約2回転分の探究的な学習。		15